

<多焦点眼内レンズと単焦点眼内レンズの違い>

眼内レンズとは、白内障手術によって取り出された水晶体の代わりに、眼内に移植される人工のレンズです。眼内レンズは、白内障手術にかかわる様々な物品や機器の中で最も手術後の見え方に影響を与えるものです。

眼内レンズには、単焦点眼内レンズと多焦点眼内レンズとがあります。単焦点眼内レンズはピントが1つしかないため手術後も高い頻度で眼鏡を必要としますが、多焦点眼内レンズはピントの合う場所が多いので手術後の眼鏡の使用頻度を大幅に減らすことができます。白内障手術後に裸眼での生活を重視したい方は多焦点眼内レンズに向いているといえます。

単焦点眼内レンズ



遠方にピントを合わせた場合、手元はぼやけて見えません。

多焦点眼内レンズ



遠方から近方(30~40cm程度)までピントが合います。

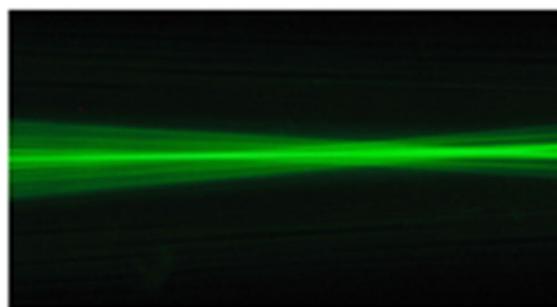
(J&J社資料：イメージ図)

<テクニス シナジー®多焦点眼内レンズについて>

一口に多焦点眼内レンズといっても様々な種類があります。現在、当院でおすすめしている多焦点眼内レンズは Johnson & Johnson 社製のテクニス シナジー®です。テクニス シナジー®は、最先端の回折技術(連続焦点回折型)を利用することで、すべての距離(遠方から近方 30~40cm まで)にピントが合うように設計されています。

また、テクニス シナジー®は選定療養制度を利用できます。(※選定療養とは、健康保険適用外の治療を追加費用負担することで、保険適用の治療と合わせて受けることができる制度です。)

以下にテクニス シナジー®の良い点と注意点についてまとめました。



TECNIS Synergy™ IOL

(J&J 社資料)

<テクニス シナジー®の良い点>

1. 遠方から近方(30~40cm 程度)までのすべての距離にピントが合います。

	遠方  運転やスポーツなど	中間  料理、掃除など	近方  パソコン、読書など
テクニス シナジー®	○	○	○
単焦点眼内レンズ (遠方にピントを合わせた場合)	○	△~×	×

*細かい文字をみる場合には老眼鏡が必要な場合もあります。また、見え方は個人の主観が入りやすいので白内障手術後の満足度は人によって異なる場合があります。

2. 従来の多焦点眼内レンズと比べて見え方の質が良く、また見え方の違和感も少なくなるように設計されています。

テクニス シナジー®は、最先端の回折技術により光のエネルギーロスが少なくなるように設計されています。そのため、従来の多焦点眼内レンズ(2焦点回折型)と比べて見え方の質が良いです。また、遠方、中間、近方のすべての距離にピントが合うので見え方の違和感が少なく慣れやすいのも特徴です。

3. 安全性の高い眼内レンズです。

テクニス シナジー®は、ダイヤモンドクライオレースカット製法(元となる疎水性アクリル素材を低温化でレースカットする製法)を用いて作られています。この製法を用いて作られたテクニス シナジー®は目の中に長期間挿入しても濁ることがありません。

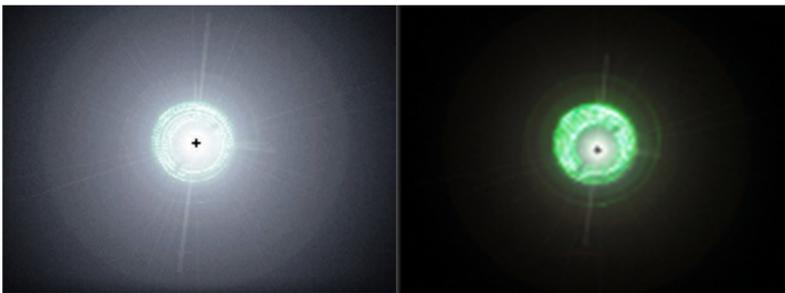


(J&J 社資料)

<テクニス シナジー®の注意点>

1. 夜間にハロー・グレア(まぶしい)症状が出ます。

日常生活で主に問題となるのは、夜間の運転中に対向車のライトをまぶしく感じる事です。そのため、タクシーやトラックなどの運転をされている方はテクニス シナジー®に向いていません。夜間に通勤などで運転する程度であれば問題となることは殆どありません。*テクニス シナジーは、昼間にまぶしさを感じることは殆どありません。



(当院研究資料)

テクニス シナジー®

単焦点 IOL

図：夜間の光の見え方のシミュレーション

2. 単焦点眼内レンズと比べて白内障手術費用が高額になります。

テクニス シナジー®は、単焦点眼内レンズを使用する白内障手術と比べて片眼で約 30～35 万円ほど経済負担が大きくなります。*詳しくは別項の「選定療養」をご参照ください。

<さいごに>

多焦点眼内レンズは、高機能ゆえに精密な手術や検査が求められ、患者様の眼や性格、生活によっては単焦点眼内レンズをおすすめさせて頂くこともあります。白内障手術時に多焦点眼内レンズをご希望される方、興味のある方は、担当医またはスタッフにお気軽にお尋ねください。